

(別紙1)

## 自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成24年10月22日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771100845		
法人名	社会福祉法人大恵会		
事業所名	グループホームいなば		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	岸和田市稲葉町1066番地		
自己評価作成日	平成24年9月7日	評価結果市町村受理日	平成24年11月16日

### 【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を利用する場合	<a href="http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp">tp://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成24年9月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた環境の中で、穏やかに暮らせるように援助する。季節ごとの行事などを、大切にし、ひとつひとつの行事を職員といっしょに、楽しんでもらえるように、毎月の担当者を決めて、レクリエーションを行うようにしている。少しでも多く、笑ってもらい、いつまでも歩いて出かけられるように、敷地内の庭にたくさんある、季節の草木を楽しみながら、ゆっくりと歩く時間を提供できるように努めている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「いなば」は南海電鉄岸和田駅発の白原車庫方面行き南海バスの稲葉バス停から徒歩15分の高台の緑に囲まれた静かな環境の中にあり、特別養護老人ホームに併設した2階建ての1ユニットの事業所である。近くには春日神社、リサイクル環境公園、山滝小学校、山滝幼稚園等が、さらに法人敷地内には遊歩道があり、四季折々の花を楽しむことができる。事業所の玄関を入ると、浴室とトイレに面した廊下があり、その先には居間兼食堂がある。部屋の3面にガラス窓があり明るくて広いスペースになっており、利用者は談笑したり、自分の好きなことをしながら、のんびりと過ごし、職員は気さくに利用者に声をかけている。住宅地とは隣接していないが、法人が少し離れた複数の町や学校等との交流に力を入れており、盆踊り等法人が開催するイベントには多くの地域の人々が来所し、また、利用者と職員は地域の小学校等からの招待で運動会や音楽会等の見学のために出かけたり、農家で季節の野菜の植え付けや収穫を体験したりしている。法人として岸和田市から地域包括支援センターといきいきネット相談支援センターの事業を受託しており、地域に根ざした事業所づくりを法人とともに目指している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に掲示	法人理念と運営方針等を事業所玄関に掲げるとともに、毎年それらを具体化した取組みテーマをグループホーム会議(月1回開催)で定め、当該会議開催案内にも記載している。平成24年度のテーマは「和みのある居場所づくり」で、非常勤職員も含めて、それぞれにテーマを考えて、写真と一緒に通路に掲示することで、理念に沿った支援ができるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	定期的に、幼稚園に慰問に来てもらったり、運動会に招待してもらったりしている	法人として稲葉町会に加入し、近くの複数の町から多くの人々が参加する法人と合同で開催する盆踊りには、利用者は家族・職員とともに参加し楽しんでいる。近所の小学校・幼稚園からの招待で運動会や音楽会を見学することや、いちご・プチトマト・じゃがいも等の植え付けや収穫を農家の支援で体験すること、および年に3回近所の幼稚園と交流訪問できること等が利用者の楽しみとなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として行っている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事内容や、利用者の様子について報告している	老人会会長、民生委員、市役所職員、家族、職員が参加し、2ヶ月毎に開催している。記録を取っているが会議に参加できなかった職員には回覧していない。また、会議は利用者の状況、事業所での行事内容、地域行事への参加状況についての事業所からの報告が主体であり、参加メンバーからの質問、意見等は少ない。	会議記録を職員全員に回覧し会議内容を伝えるとともに、参加メンバーからの質問、意見、要望等により、双方向的な意見交換がある会議になるよう、会議運営面での工夫を期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	法人として行っている	法人内にある地域包括支援センターの担当者とは利用者情報や日頃の支援に関わる課題について相談している。市の担当者とは、法改正の情報収集、諸制度の適用方法、事故報告および困難事例について相談し助言をもらっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、いつでも見ることができるようになっている	マニュアルを必要の都度見ることができるよう職場の書棚に置き、年に1回身体拘束をしないケアについて職員全員が内部研修を受けている。玄関の扉は、開の押しボタンのフンタッチ操作が要るが、朝8時～夜9時まで開錠している。また、利用者が外出を希望した場合は、職員が付き添い声掛けしながら外出している。		

7	<p>○虐待防止の徹底        管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	研修に参加		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用        管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	研修に参加		
9	<p>○契約に関する説明と納得        契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	行っている		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映        利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	定期的に、運営推進会議をおこなっている	意見箱や運営推進会議では、家族からの意見は出ないので、家族が来所する際に（3ヶ月に1回以上）、意見を聴き取っている。意見の内容は個別支援に関わることが多く、ケース記録または支援経過記録に記録し、職員で共有している。	
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映        代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	毎月、グループホーム会議をしている	毎月のグループホーム会議で管理者が職員の意見を聴き取っている。管理者は気軽に職員に声かけをし、毎日の昼食後および夕方に5分程度のミーティングを設け、職員の意見を聴くように努めている。職員からの提案は日常の業務改善に関わることが多く、利用者の状態に応じて、それぞれのテーブルに座るメンバーを変更する等の配慮をしている。	
12	<p>○就業環境の整備        代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	研修に参加		
13	<p>○職員を育てる取組み        代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	定期的に研修に参加		

14	<p>○同業者との交流を通じた向上          代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	定期的な研修に参加		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係          サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	環境や他の入居者に馴染めるよう、一緒に家事やレクへの参加の中で、傍で話をできるように配慮する		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係          サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	連絡を密にすることで、ひとつずつ、不安を解消してもらえよう努める		
17	<p>○初期対応の見極めと支援          サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	他のサービスを必要としている場合は、情報の提供に努めている		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係          職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	家事参加の中で、役割りを持ってもらえるよう努める		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係          職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	定期的に家族会を行い、交流に努めている		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居住場所が変わることで、関係が途切れがちである	利用者が、理美容師による出張サービスや地域の様々なイベント等にできるだけ参加してもらうことにより、馴染みの人たちと交流が持てるようにしている。また、喫茶店、初詣や墓参り等利用者の馴染みの場所の情報を日頃の支援の中や家族の訪問時に聴き取り、支援経過記録や職員連絡帳に記録し、職員間で共有し支援に反映している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事参加の中で、役割りを持ってもらえるよう努める		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談に努める		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	笑顔が見られる援助を心がけている	利用者が職員に直接思いや意向について意思表示することは少ないので、職員から気さくに声かけし、利用者の表情を見ながら、聴き取るようにしている。職員は利用者の思いや意向を、朝の申し送り時または昼のミーティングで管理者、介護支援専門員に直接報告するとともに、支援経過記録に記録して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入所の際、本人や家族に聞き取りを行う		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所の際、本人や家族に聞き取りを行う		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、6ヶ月に一度作成し、必要があれば、随時、変更を検討する</p>	<p>介護計画の見直しおよびモニタリングは6ヶ月毎に行い、利用者の状態に変化がある場合には随時見直している。介護支援専門員と介護職員との連携を密にして、支援をよりよいものにするため、毎月初に1ヶ月の支援の振り返りミーティングを行っている。利用者、家族、介護支援専門員、介護職員によるケアカンファレンスを予定しても家族の参加はないとの判断から家族への呼びかけは行わず、家族の訪問日に介護計画の原案を家族に見せて確認を取っている。</p>	<p>介護計画は、利用者と家族と職員により、利用者がよりよく暮らすための意見やアイデアを出し合っ て作成するものであり、家族の カンファレンスへの参加の働きかけ を期待する。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子を、個別に記録している</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>多機能のサービスを提供できるよう、法人として、様々なサービスを提供している</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>入所しても、それまでのかかりつけ医を受診できるよう、家族と調整している</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所しても、それまでのかかりつけ医を受診できるよう、家族と調整している</p>	<p>事業所の協力医療機関はあるが、利用者が入居前に通院していた医院・病院で継続して受診できるように支援している。通院同行は基本的には家族が行っているが、緊急時は職員が同行し、受診結果は家族に連絡し支援経過記録に記録し双方で情報を共有している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>必要に応じて、法人内の他部署の看護師に相談することもある</p>		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院しても、定期的に、家族や病院に声をかけ、情報収集をしている		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際、本人や家族に聞き取りをする	入居の際、利用者と家族に重度化した場合の事業所での対応方針を説明しており、重度化した場合に備えて併設の特別養護老人ホームに申し込むことを支援している。また、介護支援専門員は利用者と家族との話し合いを重ねながら、必要な時に特別養護老人ホームや医療機関等への移動が円滑にすすむよう配慮している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人として行っている	法人と合同で消火・通報および避難訓練を年2回行っており、内1回は夜間想定訓練を行っている。職員・利用者を合わせて200人近くが参加している。グループホームで災害が発生した場合も想定した管理組織編成表・指示連絡系統図や消火器・非常通報器・補助散水栓等の設置場所の位置図を記載した「消防計画」を法人で作成している。法人で食糧・水等を3日分備蓄している。	

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必ず名前と呼ぶようにしている	利用者一人ひとりを尊重して必ず苗字で呼んでいる。排泄時はトイレの戸をきちんと閉めるように心がけたり、失禁時には他の人に分からないように声かけをして支援している。職員は個人情報・プライバシーについての内部研修を受けている。個人記録は個人情報保護のため書棚や引き出しに保管している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝食は、パンかおじやの選択制にしている		

38	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日課を決めることで、メリハリのある生活を提供している</p>		
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>訪問散髪を利用して、カット、毛染め、パーマの希望もできる</p>		
40	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一緒に野菜を洗ったり、皮をむいたり、できることは、一緒にするようにしている</p>	<p>法人と契約している給食会社から食事を調達し事業所の厨房で食器に小分けし配膳している。利用者と職員は同じテーブルで一緒に食事をしている。また、流しソーメン等のイベント食の他、利用者が希望するレストラン等で外食したり、誕生会にはホットケーキ・ちらし寿司や赤飯を楽しんでいる。</p>	<p>職員が献立と食材の購入を利用者とともに行うことには難しい面があっても、調理については、事業所の厨房設備を活用し、利用者が職員と一緒に野菜を洗ったり刻んだりできるようになることを期待する。</p>
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎日の食事量を記録している</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>入歯は、毎晩預かり、洗浄剤につけている</p>		
43	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>随時、トイレ誘導をしている</p>	<p>排泄チェック表を参考に、水分補給や食べ物の摂取量を考えて、一人ひとりに応じたトイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができている。夜間はリハビリパンツと尿取りパッドを併用している利用者もいるが、その他の利用者は昼と同様に職員が誘導してトイレで排泄している。</p>	



44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、食事前に体操をしている		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に3回、時間を決めて入浴している	個浴槽がひとつあり、手すりやシャワーチェアを設置している。入浴は週3回で午後の時間帯に1対1で対応し、基本は同性介助で行っている。入浴拒否のある利用者には時間を空けてから声かけする等、無理強いしないようにしている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間でも、必要に応じて、部屋で休んでもらえる		
47	○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変更があったときは、必ず、申し送りを行っている		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事参加の中で、役割りを持ってもらえるよう努める		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族と調整を行い、希望に添えるよう努力している	近所の公園や幼稚園、落語会の催しや喫茶・レストラン等に出かけるなど、できるだけ利用者の希望に添えるように努めている。また、家族の支援で墓参りや自宅での宿泊等を行っている利用者もいる。	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>デメリットの方が大きいと考えるので、行っていない</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>必要に応じて、代わりに電話をしたり、代筆を行う</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>空調の設定は、1日に何度も調整を行い、快適な温度を保つようにしている</p>	<p>1階の居間兼食堂の奥の壁に沿ってゆるやかな階段があり、利用者はその階段を利用して2階の居室に移動している。玄関には椅子や畳ベッドを、幅の広い廊下にはいくつかのソファや椅子を置いて、利用者の気分に合わせて雰囲気の違いを選べるようにしている。明るい居間兼食堂にはテーブルおよびテレビや応接セットを配置している。また季節の花を生け、空調には気を配り、利用者が居心地よく過ごせるように努めている。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間に座れる場所を、複数つくるようにしている</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が使っていたものを、なるべく持ってきてもらうよう、お願いしている</p>	<p>居室にはエアコン、クローゼット、温湿度計を設置している。タンス、仏壇、テレビ、椅子、冷蔵庫、電気湯沸し器、急須セット等使い慣れた馴染みのものを持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>階段の昇り降りができる間は、なるべく、階段を使ってもらうようにしている</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない